

県内支社局 土佐支 0888-822-0158 北局 0888-822-0158 香美支 0888-756-0000 芸支 0888-756-0445 戸支 0888-722-0054

# 官民が協議会 香美市

【香長】香美市土佐山田町逆川の鍾乳洞「龍河洞」周辺の活性化に向け、官民が連携する「龍河洞まちづくり協議会」がこのほど立ち上がった。県や香美市、周辺の商店主らが参加し、観光客増に向けた基本計画を練り上げていく。(楠瀬健太)

# 龍河洞活性化へ連携

龍河洞は1973年に年間約105万人に達したのを契機に、県は観光振興部、産業振興推進部、商工労働部などが参加する部横断型のプロジェクトチームを結成し、龍河洞活性化協議会の立ち上げは、県化の基本計画案を練ってきた。

## 観光客増の計画策定へ



龍河洞まちづくり協議会の設立総会 (香美市土佐山田町逆川)

龍河洞は1973年に年間約105万人に達したのを契機に、県は観光振興部、産業振興推進部、商工労働部などが参加する部横断型のプロジェクトチームを結成し、龍河洞活性化協議会の立ち上げは、県化の基本計画案を練ってきた。協議会には公益財団法人「龍河洞保存会」の役員に加え、周辺の土産物や飲食店の関係者、観光まちづくり会社「ものべみらい」の社員ら約30人が参加し、県と香美市が事務局を務める。設立総会は龍河洞近くの公民館で開かれ、約40人が出席。協議会会長に保存会の岡崎淳一会長を、副会長に龍河洞でカフェを営む白鳥恵利子さん(38)を選んだ。事務局が入洞者数の推移や、県内の周遊観光拠点の整備などについて説明した。当面は県の案をたたき台に基本計画を策定し、具体策を県や市の2018年度当初予算に反映させることを目指す。岡崎会長は「龍河洞を何とかしようという雰囲気になってきた。人がどっさり来った時の活気を取り戻せるようにしたい」と話している。



龍河洞消防署の大豊分署移転 (4日から業務)

【龍河洞】龍河洞消防署の大豊分署が長岡郡大豊町の町総合ふれあいセンターの隣に移転した。新分署の事務所は、先に移転した龍河洞森林管理署南小川治山事業所を活用し、約60平方メートルの車庫を新築した。総工費は約1765万円。ふれあいセンターは14年豪雨で避難所としても使われ、西村景男消防長は「災害時に「災害時に連携も取りやすくなります。ますます」と話している。(吉川博之)

# 県内産学ドローン活用 安全普及へ新組織

カメラ付き小型無人機「ドローン」の安全利用や産業界の活用策を研究しようと、県内の大学や民間企業の関係者が1日、県ドローン安全推進協議会を設立した。産学が連携し、安全操作の講習や農業や防災面などの活用研究も視野に活動の幅を広げていきたいと考えた。ドローンは災害時の画像分析や測量、農業機器販売会社や文具店、写真店の社員と大規模なドローンが連携。



設立された「県ドローン安全推進協議会」のメンバー (香美市土佐山田町)

# 佐川町 地域バス実証運行

## あすから 循環型など11路線

【佐川】公共交通空白区での住民の移動手段を確保するため、高岡郡佐川町は3日から半年間、町中心部を循環する1路線と、中心部と郊外を結ぶ10路線からなるコミュニティバス「さかわぐるぐるバス」の実証運行を実施する。10月の本格導入に向け、担当職員らは「多くの住民に乗りてもらい、いつまでも利用できる乗り物として育んでもらえれば」と期待している。佐川町内の公共交通は、JR土讃線と、黒岩観光(黒原)の三つ



運行車両について町職員(手前)から説明を受けるタクシー事業者ら(佐川町甲)

## 四万十川の自然を楽しむ参加者 (四万十市不破)



【幡多】四万十川沿いを散策する「四万十川リバーサイドフルウヤ家族」とそれぞれのペースで歩いた。やや肌寒い天候だったが、参加者は「もう田んぼに水が入っちゃうね。風が気持ちいい」などと自然を楽しみながら散策した。初めて参加した田所洋子さん(83)は同日、28回目。(山崎友裕)

## 四万十川の自然を楽しむ参加者 (四万十市不破)

散布などで利用が広がっている。一方、2015年12月の改正航空法の施行で人口集中地区での飛行が原則禁止されたが、墜落事故や無許可飛行の摘発も相次いでいる。県外で安全普及のための組織が立ち上がる中、県内でも業務や研究で利用している情報機器販売会社や文具店、写真店の社員と大規模なドローンが連携。

同川は「普段は通り過ぎるだけの四万十川も、ゆっくり歩いたら鳥の鳴き声が聞こえる」と笑顔で話していた。2日は上流域を巡る17〜30分の4コースに約150人が参加する予定。清流保全について関心を高めてもらおうと、市観光協会などでつくる実行委員会が主催し、28回目。(山崎友裕)